

## II. 名古屋港周辺の地震、津波、液状化のリスクと対策

### 1. 地震リスクと対策

#### ■ リスク

東海地震・東南海地震・南海地震などの「南海トラフ巨大地震」が想定されています。名古屋港の港湾施設や物流拠点も震度6弱～6強の揺れが予測されており、建物の倒壊や火災、ライフライン寸断などの二次災害が懸念されます。

#### ■ 対策

建物や施設の耐震化（古い倉庫・事務所の耐震診断と補強）  
家具の固定や転倒防止器具の設置  
従業員向けの地震対応マニュアル作成と訓練  
事業継続計画（BCP）の策定と定期的な見直し

### 2. 津波リスクと対策

#### ■ リスク

南海トラフ地震発生時には、伊勢湾口から津波が侵入する恐れがあります。名古屋港周辺では津波による浸水が、飛島村や港区できわめて高い可能性があります。

#### ■ 対策

ハザードマップの確認と、津波避難経路の明確化  
高台や耐津波構造の建物への避難ルート確保  
津波警報・避難指示に即応できる体制の整備  
港湾関係者・従業員への津波避難訓練の実施

### 3. 液状化リスクと対策

#### ■ リスク

名古屋港周辺の埋立地は地盤が軟弱で、地震時に液状化が発生しやすい地域です。地盤沈下やインフラ（道路・水道・下水道など）の損傷、建物基礎の傾斜などが発生する恐れがあります。

#### ■ 対策

液状化マップで危険度を確認し、地盤補強や免震基礎の導入を検討  
地盤調査を実施し、必要に応じて杭基礎などの施工  
液状化被害を想定した復旧体制・機材の整備  
被害想定に基づくBCPシナリオの検討

※名古屋港木材産業協同組合 組合員向けに参考例として防災マイ・タイムラインを作成しました。  
自社版を作成し是非ご活用ください。

### 防災マイ・タイムライン(参考例)

時 期	行動内容（主な対策）	担 当 者
平常時	・ 防災マニュアルの整備・見直し ・ 安否確認手段の周知（電話／LINE／安否確認システム） ・ 備蓄品（水・食料・トイレ・発電機等）の管理 ・ BCP（事業継続計画）の策定・訓練実施	総務・安全担当
警戒レベル2 （大雨警報・台風接近）	・ 出勤可否の判断基準確認 ・ 外作業や荷役作業の中止検討 ・ 建材・フォークリフトの飛散・浸水対策 ・ 港湾の通行規制・情報収集（海上保安部・自治体）	現場管理者・総務
警戒レベル3～4 （避難準備・避難指示）	・ 業務停止・全員退避の判断 ・ 事前退避（自宅／会社近隣の安全な場所） ・ 機材の高所移動・電源 OFF 確認	経営者・現場長
災害発生直後 （地震・津波）	・ 全員の安否確認（即時） ・ 施設損傷・火災の有無確認 ・ 危険区域への立ち入り禁止 ・ 初動の被害情報整理と報告	全社員・班長
発生後 1 時間～当日	・ 社内復旧作業の可否判断（安全優先） ・ 重要設備の点検（倒壊・漏電・火災リスク） ・ 家族との連絡・帰宅判断（徒歩帰宅ルート）	総務・班長
発生後数日以内	・ 協力会社・顧客への連絡・対応方針共有 ・ 復旧スケジュールと業務再開計画の立案	経営者・営業